

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人一人の気持ちを大切に尊敬ある心で暖かいケアを目指している。会議等で理念を周知徹底し、具体的なケアに繋げている。	運営理念と介護理念を事務所に掲示し、職員研修で具体的に説明している。また、管理者は随時、職員とのコミュニケーションを図り、理念を共有し、日々実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会し回覧板を回したり、清掃除等の行事に参加。毎年地域の祭りに協賛し参加している。	町内会へ加入し、清掃活動などの行事への参加を通して地域との交流を図っている。学区の祭りには子ども神輿が地域を巡るが、今年はホームの敷地の中まで入ってもらえるよう町内会長にお願いしている。また、毎年中学生の職場体験学習を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元中学生の職場体験学習の受け入れ、ニチイ学館のヘルパー2級の実習を毎月数名受け入れをいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族会等の行事をプラスして行っている。家族・町内会長・他地域の方・地域包括支援センター職員に参加していただいている。	運営推進会議には町内会長、副会長、民生委員、愛育委員、家族等が参加し、事業所の活動を報告している。地域包括支援センターには案内状を郵送ではなく、職員が持参してコミュニケーションの機会を増やしている。また、後見人制度等について、系列グループホームとの合同の講演会も開催している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市社協、権利擁護の方の訪問時、日頃の生活の様子やニーズを伝えて連携を取っている。認定更新の機会にも担当者へ情報提供している。	市の介護保険課や福祉事務所への申請などを郵送で済ませることができる時でも、職員がその窓口に出向き、情報交換に努めている。また、権利擁護の方には擁護員の方が定期的にホームを訪問し、金銭管理などアドバイスしてくれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	『身体拘束ゼロへの手引き』『楽々園 身体拘束廃止ガイドライン』をもとに勉強会等を行い、徹底理解を図っている。	夜間以外は門扉や玄関に施錠していないので自由に出入りできる。ベテランスタッフも含め、研修で身体拘束に該当する事例を具体的に学習している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やカンファレンス等で高齢者虐待防止関連法について話し合う。又、職員の心身状態の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	金銭管理、判断の困難な方が制度を活用している。他者についても必要に応じて説明をしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には十分時間をかけて説明、納得していただくよう努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見や要望を聞き、取り入れ運営に活かす。意見箱を玄関に設置して意見を苦情として、前向きに捉えている。	家族の訪問が多く、職員と話し合う機会も多い。家族の理解を得て、施設内にパスワードで保護されたウェブカメラを設置しており、インターネットを利用して、家族は遠隔地でもパソコンで入居者の様子を見ることができる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム長会議・主任会議にホーム長、主任が出席し職員の意見等を伝える場があり、各ホームとの意見交換の場もある。	月1回の職員会議は、事前に希望する議題を職員から募り、主任を交え話し合う機会を設けている。また、随時なんでも話しあって、職員の意見や提案を運営に役立てている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	カンファレンスを通じて問題点や解決策等話し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修は徐々に充実、力を入れて取り組んでいる。(新人職員の定着に向けて)ふれあいセンターの介護職フォローアップ講座に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームの見学や運営推進会議、行事のお誘いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個別対応で不安なく生活できるよう配慮。担当制で信頼関係を構築している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人だけでなく家族の悩みや不安軽減に対応、援助している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にしっかり話を聴いた上で状況等を確認し、何を必要とされているかを見極め、サービスにつなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に寄り添い共感する事で壁をなくし、お互いが共に暮らす同士として、お互いが協働しながら和やかで落ち着いた生活ができるよう声かけしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	グループホームは家族の協力なくしては成り立たないことの説明とお願いをし、皆で支援していくようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙のやりとり、電話連絡を取る等の支援を行っている。昔からの行きつけの理髪店・美容院を利用されている方もいる。	入居者は手紙のやりとりをして、馴染みの関係を継続している。また、家族や友人と一緒に外食や喫茶を楽しんでいる。いきつけの美容院を利用する入居者もいる。帰宅願望の強い方には職員が同伴して自宅を訪れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中でなるべく皆で過ごせる時間や場所づくりをし、利用者同士の関係が円滑になるような働きかけをしている。職員も同じ時間を共有するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	馴染みの職員が機会を作って訪問に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉で表現できない方は日頃の様子から・・・ではないか？との思いを汲み取っていくようにしている。	職員は、意思表示がうまくできない入居者には、寄り添って話を聞いたり、表情やしぐさからその思いを汲み取っている。甘いモノを希望する糖尿病の方にはノンカロリーの食品を提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族に今までの生活歴を記入いただく書類があり、本人との会話の中から聞き出す事もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃から本人、家族との雑談の中で常にアンテナを張って情報収集し、思いを知るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランについて月1回のケアカンファを職員で行いモニタリングの上、達成に向けてケアを継続している。	ケアカンファレンスで提起された職員の意見を計画作成担当者がまとめ、家族の要望も容れて、計画を作成している。水分摂取の状況など、入居者の特徴をきめ細かく把握して計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常変化、個別のケアプランを実践したら、その日の勤務者が個人記録にその旨を記入して連動したケアをし、見直し評価に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の希望でデイケアに週3回参加されている方がおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には町内会長・副会長・民生委員・愛育委員・女性クラブの方・地域包括支援センターの職員に参加頂き、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係が築けている。警察署の巡回もお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、本人やご家族が希望するかかりつけ医としている。必要に応じて、受診の付き添い、家族とも同行し情報提供をしている。	提携医療機関と連携し、入居者の受診を支援している。かかりつけ医の受診もできる。必要に応じて、受診援助も行っている。機能低下の防止に注力し、訪問リハビリや訪問マッサージを利用してもらっている。また、非常勤の看護師が日々の入居者の体調や服薬を管理している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、入居者の健康管理や状態変化に迅速に対応できるようにしている。体調、表情の些細な変化を見逃さないよう気をつけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者、家族を交えたカンファレンスに参加させてもらいホームの希望を伝えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	一部の家族からは終末期までお願いしたいとの希望を聞いている。医師、職員が連携をとり、安心した最期を迎えられるように、随時対応していきたい。	家族が希望すれば終末期の支援をするが、医療が必要な場合は適切な医療機関へ移動をお願いしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を行い、特に新人職員に対して初期対応の方法を身につけるべく努力をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回避難訓練を行っている。運営推進会議で協力をお願いし地域の方々にも参加していただいている。	地域の住民も参加して避難訓練を行い、災害時に近隣の人の協力が得やすいようにしている。	廊下の家具は避難時に障害物となる恐れがあるので、今一度、安全性の確保に努めて頂きたいと思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄、入浴といった個人的な事は十分プライバシーに配慮。女性利用者で男性職員は・・・と言われる方には必要に応じて、女性職員で対応するようにしている。	居室のドアは内側から施錠できる。夜間の見回り時などに職員が入室する場合は、前もって入居者の了承を得ておくようにしている。排泄時の羞恥心に対する配慮など、入居者一人ひとりの気持ちを大切にしている。また、ゴミ捨てや洗濯物の取り込みなど、できる家事を入居者に手伝ってもらっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人に合わせた小さな自己決定の場面を極力設定し答えやすく、選びやすい選択が出来るよう援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別対応を優先したケアを心がけ、その中でしたい事過ごしたい場所を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは基本的に本人の意向で決めている。整髪、整容には気をつけている。化粧やマニキュア、アクセサリーを楽しまれる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で収穫した旬の野菜を使ったメニューにしたり、誕生会をしたり、外食、出前等を利用している。食事は職員と利用者一緒に食べている。片付け、食器洗いも一緒にしている。	事業所の菜園で実った新鮮な野菜や旬の食材を食べてもらっている。下ごしらえや盛り付けなどの調理を入居者に手伝ってもらっている。時々家族と一緒に外食を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲みたくなる物の工夫。お粥、刻み、ミキサー食、トロミ等、個々に応じて対応を変えている。栄養を摂ってもらう工夫を努力中。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前の嚥下体操、食後の口腔ケアは職員間で統一できている。週1回訪問口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄パターンを知り、時間毎に誘導し、トイレで排泄できる事を目指している。	職員は入居者それぞれの排泄のパターンを把握し、また、そのしぐさなどから察知して失禁を防いでいる。職員の熱心な自立にむけた支援によって、ポータブルから普通にトイレでの排泄ができるようになった入居者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を目指し、毎朝の定期的な運動と水分摂取に力を入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆったりと個別に関われる様に十分時間を取り、本人の意思を大切にされた対応を心がけている。	週に3~4日の頻度で入浴してもらっている。入浴を忌避する入居者においては、清拭やシャワー浴をもって替えている。夜間の入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活パターンに合わせて日中はできるだけ体を動かし、生活リズムを作り、安眠して頂けるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	食前、食後の服薬は、誤薬がないように必ず声に出して確認をしている。薬の処方、効能、副作用の説明をファイルに保管して、全職員に分かるよう徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ごみ捨て、洗濯物たたみ、お盆拭き等、できる手伝いをして頂いたり、折り紙、ぬり絵、カラオケ等、楽しく参加できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出したい入居者の希望や願望に合わせて散歩・買い物・外食等出かけている。木下サーカス、選挙の投票にも家族と一緒に参加して頂いている。	入居者は散歩や外食によく出かけている。外出の機会の少ない方は、職員が福祉事務所などへ用事で出かける際に同伴することもある。歩行器や車イスが必要だった入居者が職員の熱意と訪問リハビリの効果で介護器具無しに歩けるようになった事例もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額持っている方もいるが基本的には金銭は預かっていない。立替をして希望の物を購入して頂き充実感を味わってもらうよう心掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも希望があれば本人自身あるいは職員が電話をかけたり、手紙を書いたり支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用場所は常に清潔を心がけ、ホールや居室は手作りの作品や共同制作の壁画等で季節感を感じて頂ける工夫をしている。	高い天井と天窓からの採光で、明るく開放感がある。壁には入居者の作ったちぎり絵を飾っている。エアコンや加湿器が設置され、温度、湿度の管理が適切に行われており、快適に過ごせる。トイレも清掃が行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでの席は個々の性格や好み人間関係を考慮して配置し、穏やかに安心して過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していた馴染みの家具や物、あるいは自身手作りのカレンダーを飾る等、安心できる居室空間を作るよう工夫している。	仏壇や運動器具など使い慣れた家具や好みの物を持ち込んでいる。壁に人気タレントのポスターを貼っている居室もある。各々落ち着いて過ごせる場所になっている。また、家族の宿泊にも随時対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面所やトイレ等わかる様に表記し、又、使用中とわかる様にして混乱を避ける工夫をしている。		